

平成27年度 第1回 さいたま市大宮盆栽美術館運営委員会 会議録

日 時 平成27年7月21日（火）午前10時から正午

場 所 大宮盆栽美術館 2階 講座室

出席者 （敬称略50音順）

<委 員>

老川慶喜（跡見学園女子大学 副学長）、立川吉朗（埼玉県産業労働部長）、石上城行（埼玉大学教育学部 准教授）、小林正太郎（株JTB関東 法人営業埼玉支店 交流文化事業チームマネージャー）、田端フサ（ぼんさい遊々 副会長）、村上和夫（立教新座中学校・高等学校 校長）、森紀与子（盆栽研究家）、吉田俊一（埼玉新聞社編集局次長兼ニュースセンター長）

<事務局>

藤澤英之（さいたま市スポーツ文化局文化部長）、庄司洋子（大宮盆栽美術館長）、田口勝一（同副館長）、五月女正人（同参与）、山田登美男（同盆栽管理官）、渋谷仁（同主幹）、田口文哉（同主任）、石田留美子（同主事）

【次第】

1 開 会

2 委嘱状の交付

3 あいさつ

4 委員紹介

5 議 事

(1) 報 告

①（仮称）盆栽アカデミーの進捗状況について

②平成26年度入館者数等について

(2)議 題

① 平成27年度大宮盆栽美術館の主な展示事業について

② 世界盆栽大会へ向けた取り組みについて

6 その他

7 閉 会

<配布資料>

- 書類番号 1 (仮称) 盆栽アカデミーの進捗状況について
- 書類番号 2 平成 26 年度入館者数等について
- 書類番号 3 企画展「夏休み子どもぼんさい美術館」
- 書類番号 4 秋季企画展「盆栽につもる雪―「鉢木」物語の世界」
- 書類番号 5 春季特別展「大宮盆栽をつくった男たち～加藤三郎の名品盆栽展（仮称）」
- 書類番号 6 世界盆栽大会へ向けた取り組みについて

【会議内容】

5 議事

(1) 報告

- ① (仮称) 盆栽アカデミーの進捗状況について
- ② 平成 26 年度入館者数等について

(意見・質問等)

①(仮称)盆栽アカデミーの進捗状況について

委員：公的学習機関との表現があるが、修了証は、その価値を決めると思うが、名義は、館長、市長または地元の盆栽園となるのか。価値の高い修了証が求められると思うので、修了証には箔をつけたい。

事務局：修了証は出したいと考えている。権威付け必要だが、現状ではまだ検討段階。意義付けは、事務局として詰めていく。

委員：初心者、後継者育成は、重要である。ただし、これからは、プロフェッショナルを育てていくこと、シンボリックな人材に出てきてもらいたい。この人に教わりたいという教授陣。世界盆栽大会に向けて、多様な技術、文化を広めてほしい。盆栽美術館のような象徴的な施設があるので、あとは人材だと思う。

委員：外国人向け初級コースとは、どのようなプログラムなのか。観光客向けなのか。

事務局：初級コースは、原点。まずは、真似ること、名品を守ること、草木を育てあげること、良いものを鑑賞すること。

委員：観光客向けには、何をするのか。または、本格的な入校が必要なのか。

事務局：当初は、日帰り、入門編を考えている。盆栽を海外へ持ち帰ることは検疫上できないので、見学どまりとなる。在日外国人、日本人には、体験の要素を提供したい。

委員：外国人向けに長期的なプログラムも必要ではないか。修了証も重要となり、自国で仕事につなげられるようなものにすべきである。

委員：各コースについて説明を。

事務局：受講者の動向を知るために海外盆栽団体向けアンケートを行い、語学、宿泊、費用の課題があった。事務局としては、長期プログラムの実施も念頭においている。学ぶべき内容については、多様性があるようにしたい。

委員：近い事例として、タイのマッサージ学校がある。タイ王室が経営している。基礎

コースは、一週間。もっと短期的なプログラムもあるが、教育としては充実していない。広報系教育と教育系教育プログラムを分けて考える必要がある。広報系では、教育の最後に行うアンケートが試験代わりとなり修了証となる。

委員：一番のニーズは、外国人向け上級コースではないか。なので、最初に上級コースを実施する方が、インパクトがあるのではないか。また、大宮盆栽村の園主の年齢を考えると、教える側の高齢化が心配である。

委員：海外で、大宮盆栽というと格が高めなのは事実。外国人向けを最初に実施する方が良いと思う。メディアにも伝え、海外に日本を紹介するべきである。

②平成26年度入館者数等について

委員：高大生・65歳以上の割合は分かるか。

事務局：高齢者は多いが、各年代からまんべんなく来館されている。

委員：高大生と65歳以上は、集計上分けた方が良いのでは。

事務局：料金区分が同じなので、割合が分からないが精査したい。アンケートでは年代別の来館者の割合は分かるので、今後検討したい。

委員：教育施設等利用の大学はどこか。

事務局：聖学院大学である。清水教授が主導している。のべ5回当館で開催した。

委員：来館者数について、本年度はこのまま行くと、これまでで一番多い来館者数になるのではないか。

事務局：本年4月から6月分についても、多くの方に来館いただいている。外国人についても同様である。秋以降の展示も充実させるように事業を進めていきたい。円安の影響もあり、外国人の来館者の増加も考えられる。

館内で実施したアンケートでは、口コミによる来館者が多いことが分かる。今後は、来館者の鑑賞後の充実度が重要になる。

委員：美術館の受付では、来館者の入館時に、明確な外国人の区分をしているのか。

事務局：アジア圏の方は、日本語堪能の場合には、カウントできないこともある。

(2) 議 題

①平成27年度大宮盆栽美術館の主な展示事業について

②世界盆栽大会へ向けた取り組みについて

(1)国際盆栽シンポジウムについて

(2)盆栽アカデミーについて

(意見・質問等)

①平成27年度大宮盆栽美術館の主な展示事業について

委員：夏休みぼんさい美術館のチラシが全校生徒に配布されたのは素晴らしい。盆栽美術館で開催している盆栽相談デーでは、植竹小学校以外の子供が来てくれている。小学校のうちから盆栽に取り組むことは、大人になってから趣味の一つになるので

はないか。

委員：春季特別展のタイトルが「男」となっているが、今後、困るのではないか。

事務局：明治時代以降、大宮盆栽の歴史においては、男性が中心であった。ただし、一考の余地はある。

委員：夏休み子どもワークショップにおいて、英語で盆栽を学ぶワークショップを開催するが、埼玉県では、スーパーグローバルハイスクールとして、英語の高等学校特例高がある。日本文化を海外に紹介するという意味で、関係校に紹介してみてもどうか。

②世界盆栽大会へ向けた取り組みについて

(1)国際盆栽シンポジウムについて

事務局：パネリストについては、候補になっているので、他に候補があれば挙げてほしい。

委員：アジアからのパネリストがいても良いではないか。

委員：芥川賞を受賞したピースの又吉氏はどうか。話題性もあり、若い世代に訴求できるのではないか。

委員：今回のシンポジウムの趣旨、対象、テーマ設定はあるのか。

事務局：まずは、世界での盆栽文化の振興と大宮盆栽美術館の果たす役割について、次に、世界が「盆栽」をどう見ているのか、最後に、さいたま市における盆栽文化の位置付けを明らかにし、未来像を描いていきたい。

委員：主催者は。

事務局：主催はさいたま市、所管は大宮盆栽美術館。

委員：司会、パネラー、コーディネーターは。

事務局：盆栽文化、日本文化について造詣のある方をお願いしたい。基調講演をお願いしたいと考えている高階氏は、コーディネーターの立場ではない。

委員：盆栽の展示はあるのか。

事務局：ロビーに、2、3点程度を考えている。

委員：盆栽文化のブランド化の機会にできたら良いと思っていた。現在は、盆栽の現状を見るもの、盆栽のフロントラインが何かを押さえること、グローバル化した時に盆栽の美がどうなるのかを考えるものに。次の盆栽がどうなるかを問うものに。コーディネーターが重要で、美術館がどう考え、一つ集約点を見出したい。

事務局：日本の伝統文化は、床の間に飾る、浄化、来客をもてなす。海外では、日本の文化を表現するためには、必ず床の間を作る。重要な目的は、景色の表現が重要であり、四季、旬の表現をコーディネーターが押さえておくことが必要。

委員：盆栽鑑賞のフロントラインか。それをコピーにし提示する。外国人は、より高い展開を見たいと考えている。

事務局：模範的な映像があれば良いではないか。

②世界盆栽大会へ向けた取り組みについて

(2)盆栽アカデミーについて

- 委員：盆栽アカデミーの名称については、単純に「盆栽アカデミー」が良い。短ければ短いほど良い。
- 委員：大宮盆栽を学ぶのか。大宮で盆栽を学ぶのか。
- 委員：独立なのか、内部組織なのか。
- 事務局：内部組織である。
- 委員：ブランド意識として、海外からどう見られるのか。
- 事務局：海外でも「大宮盆栽」はよく知られている。
- 委員：大宮盆栽のブランド力は高いと思う。海外で盆栽の話題が出た時に、大宮盆栽は認知されている。
- 委員：盆栽アカデミーは、大宮盆栽を学ぶのか、もっと広いのか。
- 事務局：盆栽は大宮だけではないので、日本の伝統文化の一つとして、アカデミーで捉えてほしい。
- 委員：名称は、盆栽アカデミーにして、中に大宮盆栽を学ぶ講座があれば良い。
- 委員：将来的には、大宮盆栽の名を冠すれば、ブランド力が生かせるのでは。
- 委員：他の地域で、アカデミーを始めるとしたら、名称の冒頭に地域名を付ける必要があるから、オリジナルとしては、冒頭に何も付けない方が良いのでは。
- 委員：将来は、大学をつくってほしい。子供の教育のために、盆栽鑑賞と精神的なものを含めたもの。
- 委員：東京農業大学と勉強会を行うと聞いているが、東京農業大学と提携の中で、盆栽文化がプログラム化されれば良いと思う。
- 委員：盆栽を芸術として広めていただきたい。
- 委員：当館は美術館なので、本来は、展示と普及活動が重要であるが、美術との関連、伝統的な日本美術、将来的には、現代の美術を視野にいれるべきである。また、来年、さいたま市で開催されるさいたまトリエンナーレとの関連はどうか。現在の状況は、あるいは次回のトリエンナーレとの関連は。
- 事務局：現在、検討段階であり、市としては、現在、プレイベントを開催予定であるが、今後、市内各関係所管との連携については、検討していきたい。